

試聴会・訪問記掲載

河口無線ハイファイリティ試聴会報告(2017.4.22)

テクニカルブレーンのアンプ試聴会に行ってきました。

日時：4月22(土) PM1:15~PM3:00

会場：3F ハイファイリティ試聴室

<使用機材>



テクニカルブレーン プリアンプ TBC-ZERO-EX2 Complete (PhonoEQ 付)  
¥4,298,400



テクニカルブレーン モノラルパワーアンプ TBP-ZERO-EX2 ¥6,318,000 (ペア)



B&W スピーカーシステム 802D3 ¥3,672,000 (ペア)



ミッチェル ペルトドライブプレーヤー GYRO-DEC-AL ¥496,800 (アーム別売り)



オルトフォン スタティックバランス S字型トーンアーム AS-212S ¥162,000



マイソニックラボ MC型カートリッジ HYPER-EMINENT ¥496,800



エソテリック SACDプレーヤー K-01X ¥1,566,000



タスカム ワードクロックジェネレーター CG-1000 ¥162,000



当日のセッティング

### <試聴の経過>

最初にテクニカルプレーンのアンプの設計思想の説明がありました。即ち、①MC 入力トランスを別にして全段直結の直流増幅、②バランス伝送、④可能な限りの無接点化、⑤エミッター抵抗レスなどです。また、試聴を挟んで、⑥線径の大きな平角線を巻いた入力トランス、⑦大容量電源トランス、⑧選別したバイポーラートランジスターを5パラ使用などの紹介もありました。

まず、アナログでジャズが2曲ほどかかりましたが、見通しが良く、クリアーでリアルそのものの音でした。

ついでデモ用の音源でSLと花火がかかりましたが、遠近、左右の定位が良く、左右はスピーカーの外側まで音場が広がってくるようでした。

次にCDをとということで、マーラーの2番がかかりましたが、CDとは思えないほど見通しがよく広帯域の印象でした。

再びアナログに戻ってギターがかかりましたが、鮮烈で細部の描写や空間表現が見事でした。

この後、参加者からの希望も入れながら、ジャズのビッグバンドの生録CDR、ジャズピアノのCD、ショパンのピアノソナタのアナログ、女性ボーカルやギターやバッハのゴールドベルク変奏曲のCD、男声ボーカルのアナログ、ピアノのCDなどが次々とかけられていきましたが、抜けの良さ、見通しの良さ、楽器や声の質感表現の良さがよく分かりました。

アナログの音の良さについては、カートリッジやフォノイコの性能にも助けられてのこともありますが、CDについても同様の印象でしたので、テクニカルプレーンのアンプの設計思想が音に反映されていたと思います。

以上